

2018年度 事業計画書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

2018年度 活動テーマ

次世代へつなぐ、これからのヒーブ
－生活者視点と多様性を企業で発揮する－

2017年度は、関西支部と九州支部において、内閣府・男女共同参画推進連携会議とシンポジウムを共催し、昨年度の活動テーマである「三位一体で描く消費環境デザイン－消費者・企業・行政で紡ぐ次世代の消費社会－」を体現する有意義な機会となった。また、消費者・企業・行政の20年間を振り返り、将来を見通すヒントを考えるシンポジウムを開催する等、40周年記念事業もキックオフした。

2018年度の活動テーマは、「次世代へつなぐ、これからのヒーブ－生活者視点と多様性を企業で発揮する－」とした。これまでヒーブは、生活者と企業のパイプ役として長年にわたり活動してきたが、この40周年という節目に、昨今の消費者と企業を取り巻く環境変化や男女共同参画（女性活躍推進）の状況を踏まえ、改めてヒーブの存在意義と社会的役割を再考することに取り組んでいる。これからのヒーブは、ヒーブの変わらない強みである生活者視点を活かしつつ、事業者団体の強みである一人ひとりの多様性から生まれる相乗効果を企業活動へ還元することを通じ、常に将来を見通しながら社会へ発信する活動を高めていきたい。また、昨年度から取り組んでいる冊子の発行や40周年記念シンポジウム（2018年9月）等を通じた積極的な広報活動も強化し、ヒーブのプレゼンス向上ならびに会員拡大に取り組むことで、これからのヒーブへつなぐ大切な1年として活動していく。

【2018年度の活動方針】

- ① 昨年度から取り組んでいる、40年間の活動をまとめた冊子を完成させる。ヒーブの存在意義と社会的役割を再考するとともに、5年後10年後の未来を見据えた提言を行う。
- ② 2018年9月の40周年記念シンポジウムを皮切りに、冊子を活用したヒーブのPR活動を行い、会員企業のさらなる理解促進と会員拡大に取り組む。
- ③ 消費者行政・関連法の最新動向、企業に求められる実践的な消費者対応力、UCD（ユニバーサルコミュニケーションデザイン）含むダイバーシティ推進等に関する学習を通じて、会員の資質向上と満足度向上に尽力する。
- ④ 会員間および先輩ヒーブ会員との連携、他団体や行政関係との積極的な交流や合同イベント等を行うことで、会員のネットワークと視野拡大の機会を増やす。
- ⑤ 行政との連携を強化しながら、消費者志向経営と男女共同参画をテーマとした活動を展開し、ヒーブのプレゼンス向上に努める。

2018年度代表理事 梶原 織梨江

I. 2018年度事業計画

【東京本部・グループ活動】

1. 企画グループ

【活動目標】

- ・生活者と企業のパイプ役として、会員がより良い仕事をするための能力向上を図る。
- ・会員が、業種、職種、年齢を超えたヒーブのネットワークを活用できるようサポートする。
- ・会員一人ひとりがヒーブとしての活動目標を持ち、積極的に使命を果たせるようサポートする。
- ・日本ヒーブ協議会（以下協議会とする）の認知度を高め、広く活動内容を公開し、様々な分野との交流を深める。
- ・会員拡大に取り組み、活力ある組織運営を図り、有意義な活動を継続的に行うことにより、ヒーブとしての責任を果たす。

(1) 活動目的

- ① 代表理事の諮問機関として、代表理事を補佐し協議会運営が円滑に行われるよう努める。
- ② 各支部が、活動テーマにもとづき、地域性を活かしながら運営できるよう支援する。また、本部と各支部の連携を通じて、相互の資質向上を図る。
- ③ 協議会の代表として、他団体、行政、オピニオンリーダー等との交流を積極的に行い、情報交換に努めるとともに、協議会の存在・活動を社会へ発信する。
- ④ 協議会を中長期に展望し、今後の活動方針の検討ならびに改革の推進を実施する。
- ⑤ 優れたヒーブ会員の育成を図るため、自主的な研究活動を支援する。また、ヒーブの働きを社会へ発信する。
- ⑥ 協議会のシンクタンクとしてテーマを定めた基礎研究を進め、情報の蓄積を図り、その成果を継続的に社会へ発信する。

(2) 活動内容

- ① 今年度のテーマに則り、協議会全体が効果的に活動できるよう推進する。
- ② 時代にあった協議会運営ができるよう、組織や運営についての改革を推進する。
- ③ 関西・九州支部の運営委員と適宜交流・情報交換を行い、支部活動の効率的な運営を図る。
- ④ その他、期中に発生する課題や提案に応えるための企画・支援を行う。
- ⑤ 生活者・企業・行政・消費者（関連）団体・事業者団体との「連携」と「協働」を目指し、社会の変化にあわせた積極的な活動を推進する。

2. 研究会推進グループ

(1) 活動目的

① 会員の能力向上

ヒーブ活動を通して、「知識」「スキル」「感性」を磨き、その成果を企業・社会にフィードバックできるような月例研究会等を開催する。

② 協議会活動への参加促進

月例研究会の企画・運営や分科会活動、自主研究会活動に会員が積極的に参加できる運営を目指し、会員および会員企業のニーズに沿った月例研究会等を開催する。

③ 会員・会員企業・会員企業外とのコミュニケーションの促進・支援

会員・会員企業間のネットワーク作りを支援するとともに、有識者や会員外企業等に講師依頼や見学会依頼を実施することで多方面との交流を図る。

(2) 活動内容

① 総会・公開講演会の運営

- ・年に1回開催する総会および公開講演会を企画・運営する。
- ・公開講演会を企画・運営する月を適宜設け、協議会の対外的な認知を高める。

② 月例研究会の運営

- ・有識者・企業・行政等による講演会、企業見学会等を中心に月例研究会を企画・運営する。

③ 分科会・自主研究会活動の推進・運営

- ・「月例会企画・運営分科会」「調査・消費者関連情報分科会」「お客様対応を考える分科会」「商品・サービス研究分科会」の4つの分科会で活動を行う。
- ・分科会活動を通じて知識面・実践面で即戦力となるスキルの向上を目指し、各分科会の活動を支援していく。
- ・月例研究会での分科会活動時間を効果的に確保し、活動を支援する。
- ・活動成果を会員・会員企業等に報告するとともに、企業や社会に対する情報提供を支援する。

【スケジュール（予定）】

公開講演会 (公開講座含む)	4月 9月
講演会	5月 6月 7月 8月 11月 12月 1月 2月 3月
見学会	10月
分科会活動	5月 6月 7月 8月 11月 12月 1月 2月 3月
自主研究会	随時

3. 組織の活性化を図るグループ

(1) 活動目的

協議会の活性化を目的として、協議会の基盤整備を行い、会員自らが積極的に活動できるように支援する。

(2) 活動内容

① 会員の拡大と活性化

- ・会員拡大に向けた具体的な戦略活動を構築し、会員が主体的に参加できる活動を積極的に展開する。
- ・会員名簿を更新し、会員の業務に活かせるネットワークの促進を図る。

② 諸規則の見直し

- ・協議会の円滑な運営を目的として、現状に則した内規類の見直しを実施する。

③ 会員活動の推進

- ・会員が協議会運営に参加し、会員活動の活性化につながるよう役割を明確化する。
- ・選挙管理委員会、プロジェクトを擁立する場合は、会員から募集を行い参画意識を高める。

④ 交流会の開催

- ・より多くの会員と交流が図れるよう、月例研究会等にあわせて交流会を積極的に開催する。

⑤ 会員へのガイダンス

- ・協議会に関する理解を深めるため、協議会活動について5月の月例研究会またはその前後で説明を実施する。

⑥ 「理事会だより」のホームページ掲載

- ・理事会の議題の中からトピックスをまとめ、会員に報告する。

⑦ 理事・監事選挙

- ・選挙管理委員会を組織し、選挙活動が滞りなく進むよう補佐する。

4. 広報グループ

(1) 活動目的

- ① 協議会の存在およびその活動を広く外部に報せ、理解促進・認知度向上を図る。
- ② 生活者と企業のパイプ役を果たす場を支援し、生活者と直接交流を図る活動を促進する。

(2) 活動内容

- ① 情報発信
 - ・社会に向けて協議会の活動を積極的に発信し、協議会の認知および理解を高めるとともにマスコミからの問い合わせに対応する。
 - ・会員及び会員企業に対し、協議会の活動を効果的に知らせ、理解を高めることにより活動の促進を図る。
- ② 広報誌の作成
 - ・協議会の活動目的と活動内容および参加企業を広く紹介するためのツール「What is HEIB?」と機関誌「レポートヒーブ」をそれぞれ年1回作成する。
- ③ ホームページの運営
 - ・外部へ協議会活動をタイムリーに発信するために情報収集を行い、魅力あるホームページの作成ならびに維持管理を目指す。
 - ・「メンバーズコーナー」ページにて月例研究会の活動状況等、会員への情報提供を迅速に行い、会員間のコミュニケーションや情報収集に役立つコンテンツを充実させる。
- ④ 生活講習等
 - ・講師の派遣等を通じて生活に役立つ生活情報を提供し、協議会の社会的認知度を高める。

5. 調査グループ

(1) 活動目的

- ① 協議会の活動に沿い、社会や会員企業に役立つ生活者情報を収集・分析し、会員及び会員企業の業務に役立てる。
- ② 情報収集・分析・活用といった情報リテラシー力を高めるとともに、調査ノウハウを習得し、実務に活かせるようにする。

(2) 活動内容

- ① 社会調査や分析手法、結果の表現ノウハウの習得
 - ・官公庁データ等の情報ソースや情報収集方法についての勉強会を実施する。
 - ・調査・分析手法について学び、会員調査に活用、実践する。
(会員満足度調査、来場者アンケート等の作成、分析)
- ② 会員及び会員企業への情報発信、サポート
 - ・会員の業務、企業に活かせる成果物を検討し、収集・加工・共有化を図る。
 - ・分科会活動内容を計画し、活動の全体像を明確にし、参画効果やメリットを可視化する。
- ③ 40周年に向け、各分科会と連携しながら活動の集大成冊子の作成のとりまとめをする。
- ④ ③を通じて見出した課題について研究・分析を行う。

【支部活動】

1. 関西支部

(1) 活動目的

- ① 月例研究会活動を通じて、会員一人ひとりが「現状認識からの問題提起」「解決に至るまでのプロセス管理」「プレゼンテーション力」等の能力・資質向上を目指す。
- ② 会員相互のコミュニケーションを深めて相互に影響し合える関係を構築し、業種・職種を超えた“ネットワークづくり”を促進する。
- ③ 生活者視点やヒーブで学んだ成果の業務への貢献を追求して、ヒーブの存在価値を再認識する。
- ④ 支部を超えての会員相互、先輩ヒーブとのつながり、関西支部エリアでの行政・他団体・大学生等とのコミュニケーションを図る。

(2) 活動内容

- ① 月例研究会活動
 - ・前年度の振り返りミーティングでの意見を反映した「月例研究会運営マニュアル」にそって、全員で運営を行いつつ活動する。
 - ・会員の資質向上のみならず、業務へフィードバックができる研究会活動を目指す。
 - ・課題を解決して「月例研究会運営マニュアル」を適宜改訂し、効率的な支部運営を行う。
 - ・チーム運営により、会員全員が月例研究会の運営に参画し、企画・運営のスキルを身に付ける。同時に、会員同士のネットワークを強化する。
 - ・公開・セミ公開講座を開催し、会員企業への貢献度および協議会の認知度を高める。
- ② 分科会活動
 - ・「(仮)顧客ロイヤリティを考える分科会」を立ち上げて、生活者視点・ヒーブ視点を追求して専門性を磨くとともに、異業種交流やネットワーク醸成を行う。
- ③ 広報活動
 - ・他団体・行政・大学等との交流によりヒーブの認知度を高める。
 - ・ヒーブ視点での情報発信を積極的に行い、新規会員の獲得に努める。
- ④ 組織活動
 - ・会員の協議会に対する理解を深め、積極的に会員活動が行えるよう、ガイダンスミーティング、情報交換会を継続して行う。
 - ・協議会活動は会員一人ひとりの参加からなることを認識し、全員参加型の活動を実践する。

【スケジュール (予定)】

5月9日 (水) 関西支部大会	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンスミーティング ・ 関西支部大会 ・ 公開講演会 ・ 情報交換会
6月月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> 組織・月例研究会運営 ・ 情報交換ランチ ・ 会員の仕事紹介 ・ 月例研究会運営マニュアルの読み合わせ、分科会企画、ミーティング
7月月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> 月例研究会 ・ お客様対応orマーケティング講演会 ・ ミュージアム見学
8月月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> 分科会活動① ・ NPSに関連する講演会 ・ 顧客ロイヤルティ分科会
9月月例研究会	企業見学会
10月 関西支部35周年記念ヒーブセミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ (案) 歴代関西支部長によるパネルディスカッション ・ ヒーブカフェ ・ 情報交換会
11月27日 (火) ACAP・日本ヒーブ協議会 合同月例研究会	ACAP・日本ヒーブ協議会合同月例研究会
12月 月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> 分科会活動② ・ 顧客ロイヤルティ分科会
1月 月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> 組織・月例研究会運営 ・ 情報交換ランチ ・ 2018年度の振り返り、2019年度計画・予算
2月 月例研究会	スキルアップセミナー
3月 月例研究会	企業見学会

2. 九州支部

2017年度から九州支部で掲げたクレド「人間力のある企業とは何かを考え、そのために行動します。人間力あふれる地域の生活者として、考え、行動します。一人の女性として、人間力を高めるために行動します」をベースに、昨年度のテーマ『有機的な関係性 (Organic Relation)』構築というキーワードのもと、『探そう！誰も置き去りにしない“〇〇”～想像力を磨こう～』から一歩進めて、今年度のテーマは、『多様性ある未来を見つめて発信 ～企業価値を生活者視点で描こう！～』とした。今年度は、「働き方」「働く現場」「地域」「女性活躍推進」等をキーワードに月例研究会・スキルアップセミナー・分科会を開催する。

また、今年度も内閣府との共催による「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」へ応募し、さらなる九州支部の認知度アップと団結力アップを図る。

さらに新しい試みとして、東京の月例研究会を実況配信することで、月例研究会の省力化と最新情報を得る機会を創出し、東京に行かずとも九州で生活者問題の最新情報を体感できるようにする。

(1) 活動方針

- ① 昨年度テーマとして掲げた「誰も置き去りにしない」を一歩進めて、企業・地域・社会の中の多様性の必要性をより深掘りしていくことで、企業価値向上を目指す。
- ② 分科会「ダイバーシティ研究会」を立ち上げ、多様性ある企業づくり、社会づくりのための情報収集、ネットワークづくりを率先して行う。
- ③ 会員のスキルアップ向上の一環として「もしもし検定」の運営・実施に取り組む。
- ④ 男女共同参画の意識を高めるため、会員の団結力を深めるために、内閣府の事業に応募し、実施を目指す。
- ⑤ 行政機関との連携、地元企業との連携を深め、九州支部の認知度を上げるだけでなく、会員獲得に取り組む。
- ⑥ 賛助会員の拡大に取り組み、男性会員の参加を促し、男女差を越えた「生活者視点」の醸成を目指す。

【スケジュール (予定)】

5月16日 (水) 支部大会・公開講座	多様性ある雇用環境をつくる (仮) 場所：アクロス福岡 円形ホール
6月 月例研究会 分科会	東京月例の実況中継 ダイバーシティ研究会
7月14日 (土) ヒーブセミナー	もしもし検定&対策講座
8月 ヒーブセミナー	農政局との合同開催
9月 月例研究会 分科会	東京月例の実況中継 ダイバーシティ研究会
10月～12月内閣府共催イベント (仮)	男女共同参画イベント (仮)
1月 ヒーブセミナー	もしもし検定&対策講座
2月 マラソンミーティング	今年度のまとめ、次年度のプレスト
3月 公開講座	ダイバーシティ研究会事例発表会

【九州支部 ヒーブのクレド】

人間力のある企業とは何かを考え、そのために行動します。

人間力あふれる地域の生活者として、考え、行動します。

一人の女性として、人間力を高めるために行動します。

Ⅱ. 予算

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目	金 額
前 期 繰 越 金	102,499
会 費	
正 会 員 82 名	4,920,000
個 人 会 員 8 名	144,000
小 計	5,064,000
入 会 金	
正 会 員 4 名	120,000
個 人 会 員 2 名	10,000
小 計	130,000
賛 助 会 費 30 口	1,500,000
雑 収 入	
預 貯 金 利 息	1,000
特 別 例 会 費	710,000
そ の 他	395,000
小 計	1,106,000
収 入 合 計	7,800,000
総 合 計	7,902,499

<支出の部>

(単位：円)

科 目	金 額	
活 動 費 (東京・関西・九州合計)	3,335,000	
東京	2,155,000	
企画活動	90,000	
研究会推進活動	1,230,000	
組織の活性化を図る活動	200,000	
広報活動	635,000	
調査活動	0	
関西	750,000	
九州	430,000	
運 営 費	4,065,000	
地代家賃	610,000	
人件費	1,750,000	
税理士報酬	360,000	
運賃・通信費	360,000	
交通費	455,000	
会議費	20,000	
消耗品費	140,000	
印刷費	160,000	
支払手数料	70,000	
交際費	10,000	
租税公課	120,000	
雑費	10,000	
40周年記念事業積立金 (特別会計へ)	1,000,000	
	1,000,000	
支 出 合 計	8,400,000	
当期剰余金	△ 600,000	
次期繰越金	102,499	
総 合 計	7,902,499	